

壬生町庁舎

町民と行政が共創し、ひとつになる「町のリビング」

「壬生町の中心に、町民と行政が共創し、ひとつになる『町のリビング』をつくる」をメインコンセプトに、敷地北側の総合運動場、西側の保健福祉センターと連携して周辺地域の「核」となる施設を目指した。

北、東、西側の3か所のアプローチを設けてアクセスに配慮するとともに、ゆとりある敷地を活かした約110mの伸びやかな平面によってすべての窓口部門を1階に集約し、上下移動なく各種手続きを行うことができる計画とした。

1階の町民ロビー、執務室は幅300×高さ2,000の扁平断面のPCaPCロングスパン梁を採用することで柱のない60m×18mの開放的なワンルーム空間を実現した。町民ロビーの窓際には下屋を設け、上部から北側の安定した光を取り入れるとともに下部は天井高さを抑えたヒューマンスケールな空間とし、官民共用の会議室や打合せコーナー、キッズスペースといった人が集まる場所をつくり出している。



地域・町民に開かれた北側ファサード



県産杉の温かい表情が浮かび上がる北側ファサード（夜景）



町民・職員が一つに集う「町のリビング」

関係者コメント

【建築主】

新しい庁舎は「壬生町の中心に、町民と行政が共創し、ひとつになる『町のリビング』をつくる」ことをテーマとして、
①町をつなぎ、町民をつなぐ「結びの庁舎」
②町を守り、町民の拠り所となる「安心の庁舎」
③誰もが利用しやすく、居心地の良い「憩いの庁舎」
④壬生の特色ある地域の魅力を伝え「発信する庁舎」
⑤永く使うことのできる「スマートエコ庁舎」の5つの設計方針を基に町民に愛される町のシンボルとなる庁舎の実現を要望しました。

【設計者】

本計画は昭和33年に建設され老朽化が進んだ旧庁舎から、町の地理的にも人口的にも中心となる敷地に新庁舎を移転・新築するものです。そのような背景から「壬生町の中心に、町民と行政が共創し、ひとつになる『町のリビング』をつくる」をメインコンセプトに、敷地北側の総合運動場、西側の保健福祉センターと連携して周辺地域の「核」となる施設を目指しました。

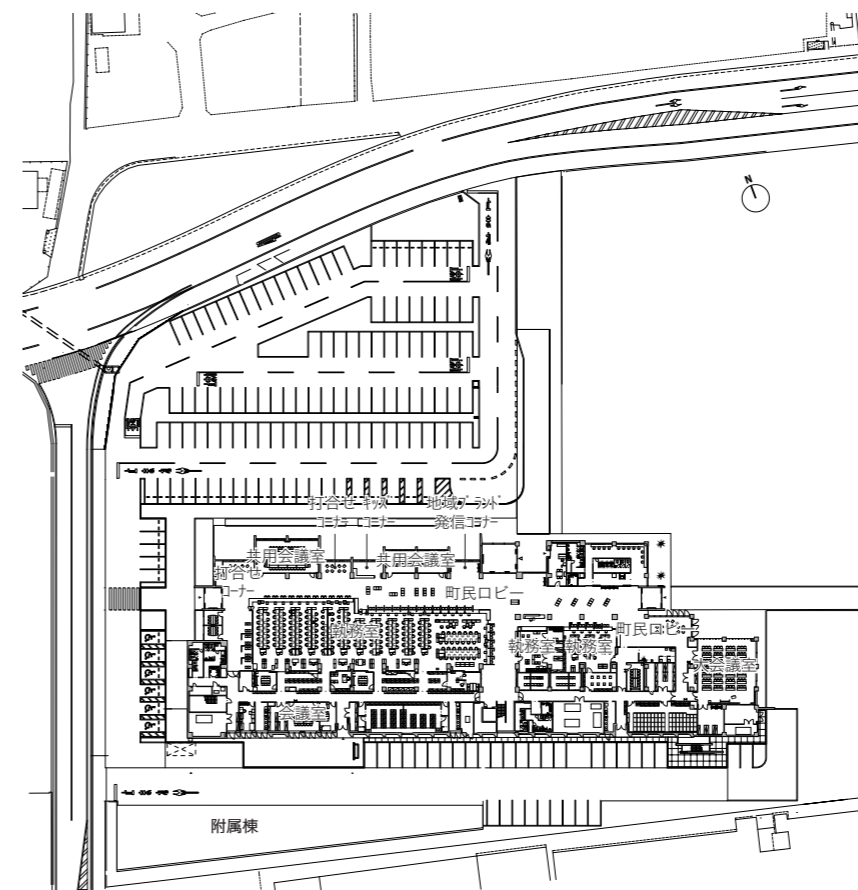
【施工者】

壬生町新庁舎を建設するにあたり施工の留意すべき課題を何点か上げました。その中でも特に留意すべき課題として1階執務室吹抜け空間を構成するPC梁（巾30cm×梁背185cm）の施工でした。PC梁は最大18m（3分割で連結する）あるため微妙な精度調整が課題でした。また、吹抜け空間の意匠面では、天井が木スリットで構成されて音の吸収を高める構造であり、施工方法を細部にわたり検討を重ねました。天井、床を栃木県産の材料で行い、コ

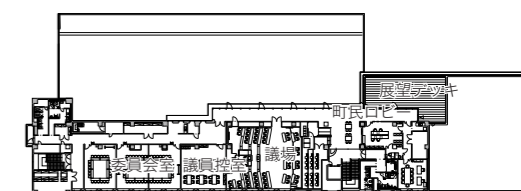
特に、来庁者の利便性に配慮し、ワンフロアで概ね全ての各種手続きが済ませられるよう、大部分の部署を配置するため、1階には大空間を設け、デザイン的にも開放的な雰囲気となるよう努めました。イメージに相応しい庁舎が完成し、町民や来庁者の方に素晴らしい庁舎だとお声をかけていただくことが多くなりました。壬生町に相応しい町民に愛される町のシンボルができあがったのではないかと満足しております。

町の景観に溶け込む伸びやかな外観、ゆとりある敷地を活かして1階に窓口を集約した誰もが使いやすい平面、顔の見えるワンルームの大空間とヒューマンスケールの落ち着いた空間の両立、県産木材を多用した温かい内装などによる本庁舎が周辺地域の「核」となり、将来のとちぎのまちをリードする建築のひとつになることを願っています。

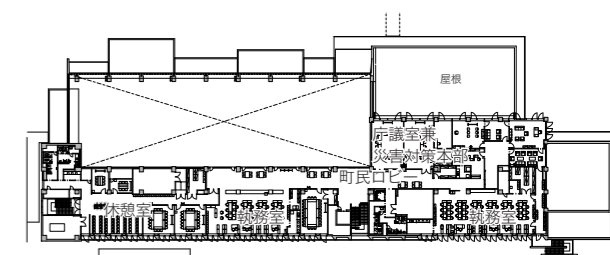
ンクリート柱を杉型枠の化粧柱とし色具合も含めうまく全体が調和して大空間が生まれました。建物全体がコンクリート打放仕上げが多く、南面の外壁においては柱を台形にし、梁型を正面に出すアウトフレーム構造で、型枠の組立から細部の納まりに検討を重ねました。打放仕上げにおいても細心の配慮を行いました。庁舎建設の設計方針である町のリビングとして満足できる建物に仕上がったことで造る側においても誇りになることと思います。



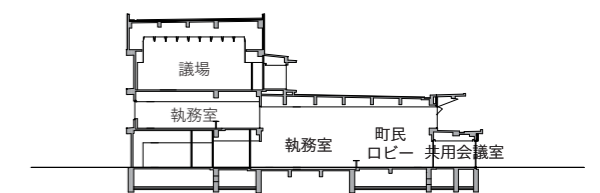
配置図兼1階平面図 S=1/1200



3階平面図 S=1/1200



2階平面図 S=1/1200



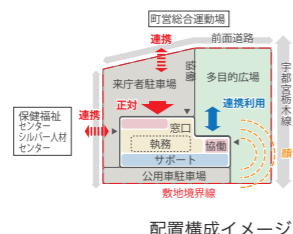
断面図 S=1/800

1 景観への配慮や優れた修景 町をつなぎ、町民をつなぐ「結びの庁舎」



多目的広場とつながる北東部分鳥瞰

新たに整備される多目的広場や既存の総合運動場や保健福祉センターと連携して周辺エリア全体の発展の核となり、「**町をつなぎ、町民をつなぐ『結びの庁舎』**」とすることを目指した。ゆとりある敷地を最大限に活かして低層に抑えることで、「緑園都市」にふさわしい伸びやかな外観とし、約110mの間口と雁行する平面によって周辺施設や多目的広場とつながる面を最大化した。



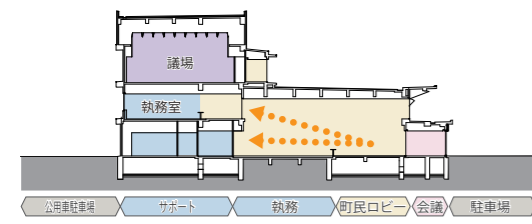
配置構成イメージ



雁行して広場と連続する平面構成

2 優れた機能性や建築技術、高齢者や障害者等への配慮 誰もが利用しやすく、居心地の良い「憩いの庁舎」

伸びやかな平面を活かして北、東、西の3方向に出入口を設け、全ての窓口を1階に集約することで誰もがアクセスしやすい庁舎とした。町民ロビー、執務室は柱のない60m×18mのワンルームの大空間とした。見通しを確保することで案内性を高めるとともに、顔の見える窓口、執務室とし、「**町民・職員が一つに集う『町のリビング』**」としている。北側には下屋を設け、上部からの安定した光を取り入れるとともに、下部は天井高さを抑えた落ち着いた空間とし、官民共用の会議室や打合せコーナー、キッズスペースといった人が集まる憩いの場をつくり出している。誰もが快適に利用できるようにユニバーサルデザインを徹底し、**ひとにやさしいまちづくり条例の適合証**を取得している。



断面構成イメージ



町のリビングとしての町民ロビー・執務室

60m×18mのワンルーム空間にはPCaPCによる幅**300×高さ2,000**の扁平断面のロングスパン梁を採用した。扁平断面を活かして防煙垂壁機能を持たせるほか、側面を照明で照らすことで大空間に奥行きやリズムをもたらし、構造的合理性だけでは導くことのできないデザイン上の大きなアクセントとしている。



PCaPC梁



ヒューマンスケールの打合せコーナー



天井、PCaPC梁見上げ

3 優れたデザイン性や獨創性等、その他 特色ある地域の魅力を伝え「発信する庁舎」

議場の天井は徳川将軍家の宿所として用いられた壬生城をイメージし、**折り上げ格天井**を現代的にアレンジしたデザインとしている。**県産桧**を用いた格天井は、テーパーをとり、シャープな納まりとした。壁は不燃処理した無垢の**県産杉**を用いており、25×30、35×30、45×30をランダムに組み合わせたパターンとし、繊細な縦格子によるデザインとしている。

町民ロビーや会議室の壁・天井は不燃処理した無垢の**県産杉**とするとともに、フローリングにも**県産杉**を使用し、町民・職員が心地よく過ごすことのできる温かみのある内部空間とした。

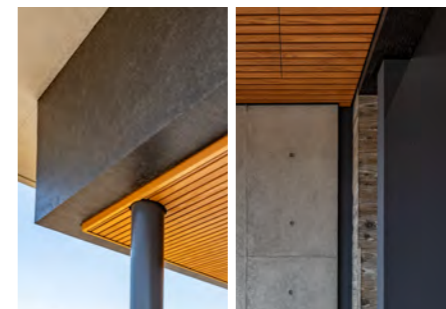
外部、内部問わず、杉板本実型枠の柱やPCaPCの梁などのように構造を表すこと、異種素材や構成要素の縁を切ることで素材のもつ風合いや重量感を際立たせることを狙っている。サインや家具、手摺その他の各要素についても同様の方針として、サインは木の厚みを変えたブロックを案内表示に用いたり、窓口の間仕切パネルでは木格子を用いるなど、建築の要素と同様に単なる表面的な素材感にとどまらない**物質性を感じさせるデザイン**を目指した。



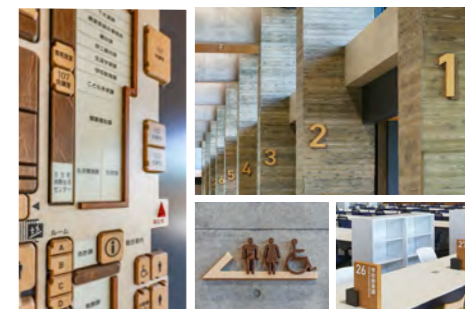
県産杉を壁、天井に使用した会議室



壬生城の折り上げ格天井を現代的にアレンジした議場



異種素材、要素の取り合い

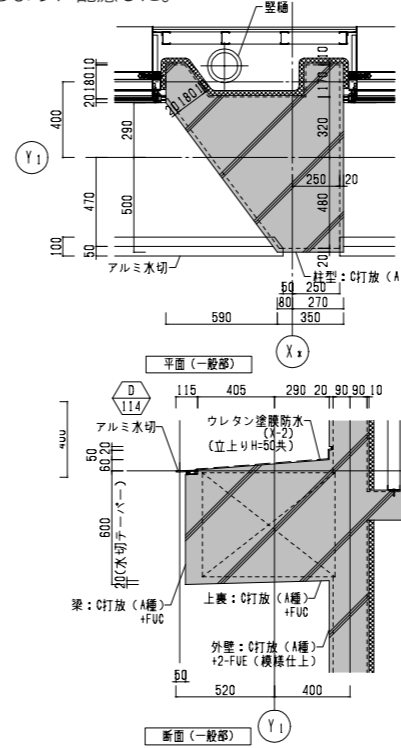


杉板型枠の柱、木を活かした立体的なサイン

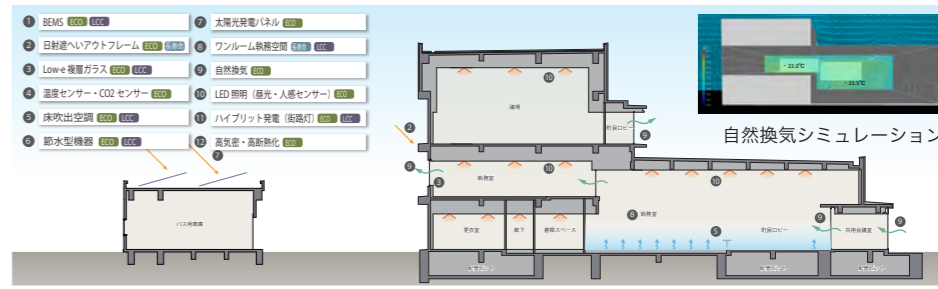
4 再生可能エネルギー利用や省エネルギー化 意匠・構造・設備を統合した「スマートエコ庁舎」

環境配慮技術は空間特性を踏まえ、意匠・構造・設備を統合したものとするとともに、**それ自体が高いデザイン要素となるような計画**としている。

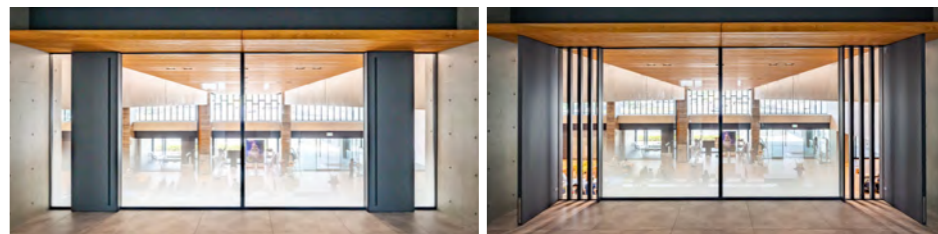
南側外観は構造アウトフレームを活かして日射負荷を抑制するとともに、フレームによって彫りの深い表情を持つファサードとしている。町のリビングの吹き抜け部分においては中間期の自然換気と空調効率を両立させるように、吹き抜けに面して開閉可能な**防火戸兼自然換気窓**を設けている。空調は床吹出空調方式を採用し、居住域を効率よく空調できるように配慮した。



構造アウトフレームを活かし、日射負荷を抑制する南側外観



環境配慮、LCC低減のイメージ



閉鎖時・開放時ともに美しく見えるように配慮した防火戸兼自然換気窓